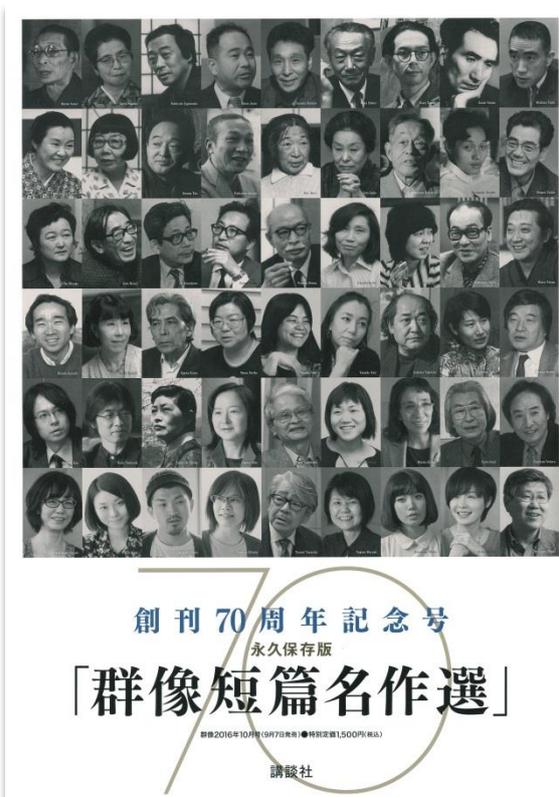


## 戦後70年の文学が一冊に！

群像70周年記念特大号（2016年10月号）

### 永久保存版「群像短篇名作選」電子版配信！



株式会社講談社は、文芸誌「群像」70周年記念特大号（2016年10月号）を電子化し、本日（9月9日）以降配信いたします。紙版は記念特大号にふさわしく、804ページ、約0.8Kgの重厚さです。電子版ならお手元のスマートフォン等で、いつでもお楽しみいただけます。

1946年に創刊された文芸誌「群像」は10月号で、70周年を迎えました。これを記念し、本号では70年の間に群像に発表された短篇から、名作を選びすぐりアンソロジーを編みました。このアンソロジーは、日本文学の歴史を辿る貴重な記録とも言えるでしょう。太宰治から川上弘美まで、決して古びることない日本が誇る名作短篇を、たっぷりと、じっくりと、お楽しみください。

#### 〈内容〉

- ・座談会「群像70年の短篇名作を読む」辻原登、三浦雅士、川村湊、中条省平、堀江敏幸
- ・群像短篇名作選
- ・評論「『群像』の70年の轍」清水良典
- ・評論「『群像』で辿る〈追悼〉の文学史」坪内祐三
- ・名物コラム「侃々諤々」傑作選

2016年9月9日

## 〈群像短篇名作選 掲載作〉

太宰 治「トカトントン」(1947年1月号)／原 民喜「鎮魂歌」(1949年8月号)／大岡昇平「ユー・アー・ヘヴィ」(1953年5月号)／安岡章太郎「悪い仲間」(1953年6月号)／庄野潤三「プールサイド小景」(1954年12月号)／吉行淳之介「焰の中」(1955年4月号)／円地文子「家のいのち」(1956年9月号)／室生犀星「火の魚」(1959年10月号)／島尾敏雄「離脱」(1960年4月号)／倉橋由美子「囚人」(1960年9月号)／正宗白鳥「リ一兄さん」(1961年10月号)／佐多稲子「水」(1962年5月号)／森茉莉「気違ひマリア」(1967年12月号)／深沢七郎「妖術的過去」(1968年3月号)／小沼 丹「懐中時計」(1968年6月号)／河野多恵子「骨の肉」(1969年3月号)／瀬戸内晴美「蘭を焼く」(1969年6月号)／三浦哲郎「拳銃」(1975年1月号)／吉村 昭「メロンと鳩」(1976年2月号)／富岡多恵子「立切れ」(1976年11月号)／林 京子「空罐」(1977年3月号)／藤枝静男「悲しいだけ」(1977年10月号)／小島信夫「返信」(1981年10月号)／大江健三郎「無垢の歌、経験の歌」(1982年7月号)／後藤明生「ピラミッドトーク」(1986年5月号)／大庭みな子「<sup>サウザンベリイ・ベイ</sup>鮭苺の入江」(1986年10月号)／丸谷才一「樹影譚」(1987年4月号)／津島佑子「ジャッカ・ドフニ——夏の家」(1987年5月号)／色川武大「路上」(1987年6月号)／山田詠美「唇から蝶」(1993年1月号)／多和田葉子「ゴットハルト鉄道」(1995年11月号)／笙野頼子「使い魔の日記」(1997年1月号)／小川国夫「星月夜」(1998年1月号)／稲葉真弓「七千日」(1998年2月号)／保坂和志「生きる歓び」(1999年10月号)／辻原 登「父、断章」(2001年7月号)／黒井千次「丸の内」(2003年1月号)／村田喜代子「鯉浄土」(2005年6月号)／角田光代「ロック母」(2005年12月号)／古井由吉「<sup>しろよだ</sup>白暗瀬」(2006年9月号)／小川洋子「ひよこトラック」(2006年10月号)／竹西寛子「五十鈴川の鴨」(2006年10月号)／堀江敏幸「方向指示」(2006年10月号)／町田 康「ホワイトハッピー・ご覧のスポン」(2006年10月号)／松浦寿輝「川」(2009年1月号)／本谷有希子「アウトサイド」(2012年3月号)／川上未映子「お花畑自身」(2012年4月号)／長野まゆみ「45°」(2012年5月号)／筒井康隆「大盗庶幾」(2012年12月号)／津村記久子「台所の停戦」(2012年12月号)／滝口悠生「かまち」(2013年4月号)／藤野可織「アイデンティティ」(2013年8月号)／川上弘美「形見」(2014年2月号)

\*電子版には三島由紀夫「岬にての物語」は収録されていません。

\*配信開始日は書店により多少異なります。

## 【お問い合わせ】

講談社デジタル第二営業部 須藤寿恵  
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21  
TEL 03-5395-3632  
Email:hi-sudo@kodansha.co.jp